

2017年3月期 第3四半期連結業績概要 2017年3月期 通期見通しについて

執行役員
山西 哲司

2017年3月期 第3四半期決算のポイント

◆売上高、営業利益とも四半期ベースで過去最高を更新

売上高は前年同期比7.7%増、営業利益7.3%増
高周波部品、二次電池の販売拡大により受動部品、二次電池は前年同期比で増収増益

◆HDD市場が期初想定より堅調に推移

磁気応用製品は前年同期並みの収益を確保

※HDD市場予測（当社推定）：期初4.0億台→前回4.1億台→今回4.2億台

◆Qualcommとの業務提携ならびに合併会社設立契約の

クロージングを見込み、通期業績見通しに反映

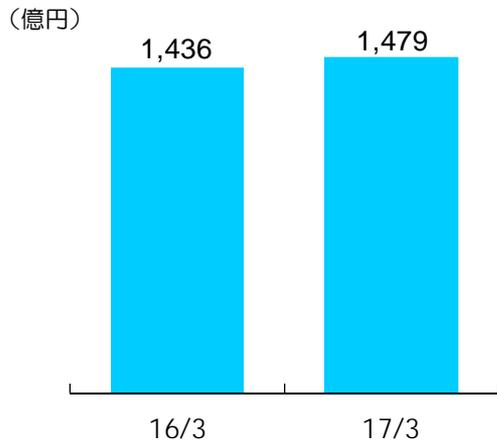
第4四半期に譲渡益を計上し、通期業績見通しを上方修正

2017年3月期 第3四半期（四半期）連結業績概要

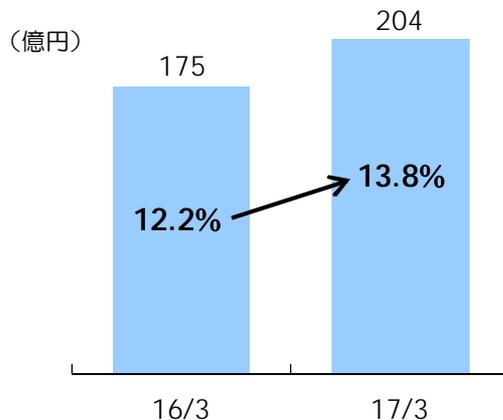
(億円)	2016年3月期 第3四半期実績	2017年3月期 第3四半期実績	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	3,017	3,248	231	7.7
営業利益	303	325	22	7.3
営業利益率	10.0%	10.0%	±0.0 pt	-
税引前利益	299	321	22	7.4
当期純利益	249	244	△5	△2.0
1株当たり利益(円)	197.83	193.52	-	-
為替	対ドルレート(円)	121.41	109.19	10.1%の円高
	対ユーロレート(円)	133.05	117.74	11.5%の円高
為替変動による 影響金額	売上高：約373億円の減収 営業利益：約76億円の減益			

第3四半期各事業の状況（受動部品事業）

売上高



営業利益（営業利益率）



売上高 1,479億円（前年同期比3.0%増）
 営業利益 204億円（前年同期比16.6%増）

●セラミックコンデンサ

- ・売上は前年同期比で減少。
- ・自動車市場向け販売が増加。ICT市場向け販売は減少。

●インダクティブデバイス

- ・売上は前年同期比で減少。
- ・自動車市場向け販売が増加。ICT市場向け販売は減少。

●高周波部品

- ・売上は前年同期比で増加。
- ・ディスクリート製品及びダイバーシティモジュール販売増。
- ・利益率も前年同期比で向上。

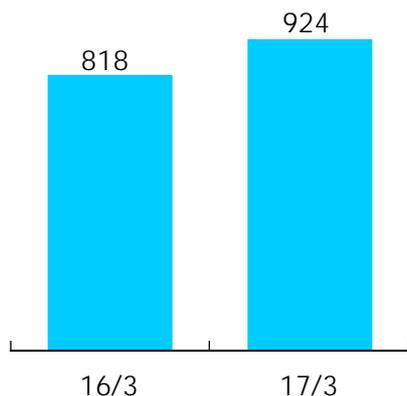
●圧電材料部品

- ・売上は前年同期比微減。
- ・中国スマホ向けカメラモジュールアクチュエータは堅調。

第3四半期各事業の状況（磁気応用製品事業）

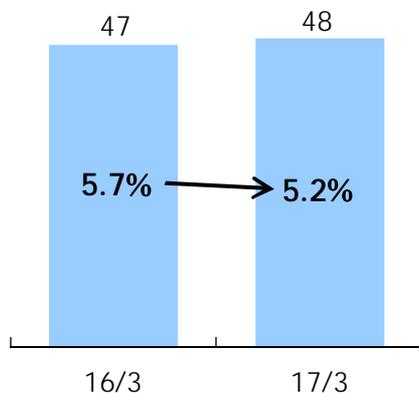
売上高

(億円)



営業利益（営業利益率）

(億円)



売上高 924億円（前年同期比13.0%増）
 営業利益 48億円（前年同期比2.1%増）

●HDDヘッド

- ・売上は前年同期比で増加。
- ・HDD市場が低調な中、HDDヘッドの販売は期初想定より堅調に推移。

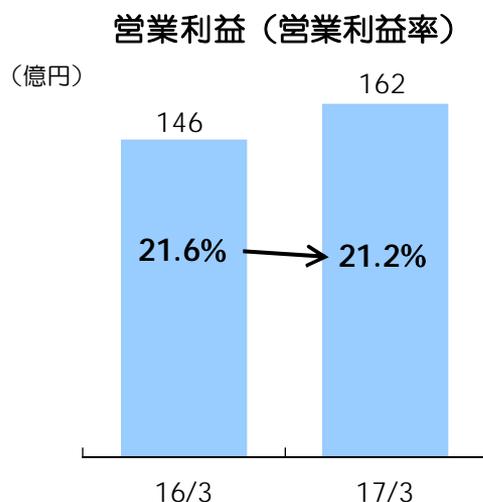
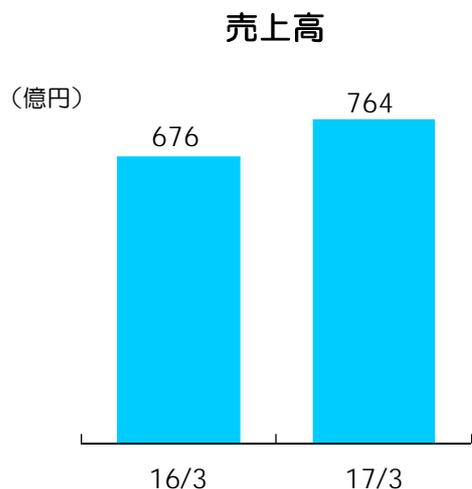
●マグネット

- ・売上は前年同期比で減少。
- ・HDD向け販売が減少。

●電源

- ・売上は前年同期比で減少。
- ・産業機器市場向け販売が減少。

第3四半期各事業の状況（フィルム応用製品事業）



売上高 764億円（前年同期比13.0%増）
 営業利益 162億円（前年同期比11.0%増）

●エネルギーデバイス（二次電池）

- ・売上は前年同期比で増加。
- ・スマートフォン向けの販売が大幅に増加。
- ・スマートフォン以外の新規アプリケーション向けの販売も堅調に推移。
- ・前年同期と同水準の高利益率を維持。

セグメント別四半期実績

(億円)		2016年3月期 第3四半期 (A)	2017年3月期 第2四半期 (B)	2017年3月期 第3四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	364	337	336	△ 28	△ 7.7	△ 1	△ 0.3
	インダクティブデバイス	389	355	366	△ 23	△ 5.9	11	3.1
	その他受動部品	682	748	777	95	13.9	29	3.9
	受動部品合計	1,436	1,440	1,479	43	3.0	39	2.7
	記録デバイス	585	623	707	122	20.9	84	13.5
	その他磁気応用製品	233	216	216	△ 17	△ 7.3	0	0.0
	磁気応用製品合計	818	839	924	106	13.0	85	10.1
	フィルム応用製品合計	676	652	764	88	13.0	112	17.2
	その他	87	73	81	△ 6	△ 6.9	8	11.0
	合計	3,017	3,004	3,248	231	7.7	244	8.1
営業利益	受動部品	175	207	204	29	16.6	△ 3	△ 1.4
	磁気応用製品	47	24	48	1	2.1	24	100.0
	フィルム応用製品	146	130	162	16	11.0	32	24.6
	その他	△ 1	△ 20	△ 16	△ 15	-	4	-
	小計	367	341	398	31	8.4	57	16.7
	全社および消去	△ 64	△ 63	△ 73	△ 9	-	△ 10	-
	合計	303	278	325	22	7.3	47	16.9
	営業利益率	10.0%	9.3%	10.0%	+0.0pt	-	+0.7pt	-
為替	対ドルレート (円)	121.41	102.47	109.19				
	対ユーロレート (円)	133.05	114.36	117.74				

営業利益増減分析

2016年3月期
第3四半期
303億円

営業利益 +22億円

2017年3月期
第3四半期
325億円

(単位：億円)

売上による
利益変動
+214

売価値引き
▲159

為替変動
(US\$=Yen 109.19)
▲76

合理化
コストダウン
+111

構造改革効果
+6

販売費及び
一般管理費増
▲74

303

325

2017年3月期 第3四半期（9か月）連結業績概要

(億円)	2016年3月期 第3四半期累計実績 (2015.4.1~2015.12.31)	2017年3月期 第3四半期累計実績 (2016.4.1~2016.12.31)	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	8,893	9,040	147	1.7
営業利益	759	768	9	1.2
営業利益率	8.5%	8.5%	±0.0 pt	-
税引前利益	739	764	25	3.4
当期純利益	564	571	7	1.2
1株当たり利益 (円)	447.54	452.53	-	-
為替	対ドルレート (円)	121.67	106.67	12.3%の円高
	対ユーロレート (円)	134.42	118.15	12.1%の円高
為替変動による 影響金額	売上高：約 1,230億円の減収 営業利益：約 257億円の減益			

2017年3月期 連結業績及び配当金見通し

(億円)	2016年3月期 通期実績	2017年3月期 業績予想 (期初公表値)	2017年3月期 業績予想 (修正値)	2017年3月期 業績予想 (再修正値)	修正業績予想対前期比	
					増減	増減率(%)
売上高	11,523	11,600	11,400	11,500	△ 23	△ 0.2
営業利益	934	740	760	2,130	1,196	128.1
営業利益率	8.1%	6.4%	6.7%	18.5%	+10.4 pt	-
税引前利益	918	730	750	2,120	1,202	130.9
当期純利益	648	500	520	1,450	802	123.8
1株当たり利益(円)	514.23	396.44	412.19	1,149.34	-	-
配当金(円)	上期：60 下期：60 年間：120	上期：60 下期：60 年間：120	上期：60 下期：60 年間：120	上期：60 下期：60 年間：120	-	-
為替	対ドルレート(円)	120.13	110.00	下期 100.00	4Q 110.00	-
	対ユーロレート(円)	132.67	125.00	下期 110.00	4Q 118.00	-
固定資産の取得 (設備投資費)	1,607	2,000	1,900	1,900	293	18.2
減価償却費	832	950	900	900	68	8.2
研究開発費	849	900	900	900	51	6.0

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2017/3q_1.htm